



静岡県立沼津商業高等学校同窓会
 〒411-0917
 静岡県駿東郡清水町徳倉1205
 TEL 055-932-5747 (FAX共用)

会長就任にあたって



会長
 小池忠雄
 (定高八回)

明治三十二(一八九九)年に開校した母校沼津商業高等学校は昨年一〇周年を迎え、伝統ある実業高校として私たち同窓生の誇りとなっています。

ところで今年の一月の総会を前にして、大島淑嗣選考委員長、顧問、相談役から、次期会長をとのお話をいただきましたが、生来の未熟者で大変戸惑いました。

しかし、総会も実際に迫りその上大島委員長などの説得もあり、会員のご協力と役員のお力添えで何とか一期二年を勤めさせていただきましたこうと決心いたしました。

いま、沼商同窓会は沢山の問題をかかえていると感じています。一つは会員数で女性の数が圧倒していることです。女性が多いと同窓会の運営ができなくなるなど

とは考えませんが、丸子町で高校生を送った多くの同窓生には想像だにしていなかったことです。

これからは同窓会を引っ張る原動力として女性陣に大いに力を發揮してもらわなくてはなりません。建設的なご意見を期待させていただきます。

また、毎年行っている総会や懇親会への若い会員、特に徳倉に移ってからの会員の参加がきわめて少ないことも悩みの種となっています。これを何とか打開する手立てはないのでしょうか。

一人でも多くの若い会員の同窓会総会、懇親会への参加をお待ちしております。一度、参加してみたいかがでしよう。

そしていま同窓会は皆さんからお納めいただいている二千円ほどの年会費を主たる収入源として運営しています。年会費の例年の納入状況は一千人程度となっており全同窓生のおよそ四割という数字となっています。健全な同窓会運営には、いまま少し多くの同窓生のご協力が必要です。でき得れば多くの同窓生の母校

のさらなる発展を期し、年会費のご納入にご協力いただければとお願いいたします。

また、国の制度の改革による高等学校の授業料無料化でも、同窓会は新たな対応を迫られています。

過去、同窓生の皆さんからご協力いただいた基金(この基金を原資として一部在校生の授業料相当額を負担)や一部有志からの同じような基金(この基金で一部大学進学者の入学金などの資金として一定額を貸与)をもとにした母が生徒への奨学金などへの対応です。貸与分については一部返済の滞りも見られます。

そして残念なことが一つあります。それは平成二十三年三月に静岡県立沼津商業高等学校を併合した第二長期計画により定時制課程が統合され、沼商定時制七十年の歴史に幕を閉じることになったと云うことです。

沼商の定時制は昭和十六年当時、勤労青少年に教育施設をという崇高な意志を持ち続けた横山定さんが県当局などに掛け合い、やっとの思いで設置されたものです。来年三月にはその定時制がなくなります。

沼商同窓会にはまだまだやらなければならぬことが目白押しの状態だと思います。これには会員の皆さんの積極的なご協力がなければ、成功し得ないことばかりです。皆さんのご協力を期待して就任のご挨拶とさせていただきます。

第五十八回同窓会総会と懇親会

〳丸子・徳倉を受け継ぐ沼商の絆〳

左記の日程により総会・懇親会を開催いたします。受け継がれた新たな絆を求めて、数多くの同窓生の参加を期待しております。

日時 平成二十三年

一月十六日(日)

場所 ホテル沼津キャッスル

受付 十二時三十分より

総会 十三時三十分より

講演会 十四時四十分～十五時四十分

演題 「私の人生を開眼させた沼商」

講師 鈴木緑郎元定時制教頭

(第二商業一回流)

懇親会 十六時～十八時

会費 七〇〇円(但し、事前

振込の場合は六五〇円)

申込方法、新聞広告掲載希望など詳しくは折り込みの案内をご覧ください。

年会費納入にご協力を

沼商同窓会と同じ学舎で学び、同じグラウンドを駆け巡り、強い絆で結ばれた二万五千人を超える仲間たちに支えられています。百年を超える歴史とそこに生まれた伝統に築かれた母校の同窓会の一員として、会員相互の親睦や母校発展のため、同窓会年会費の納入にご協力下さい。同封いたしました振替用紙をご利用の上、郵便局からお納め下さい。ご協力をお待ちしております。

定時制がなくなり
ます

定時制が果たした役割



元定時制教頭
鈴木 緑郎
(定高一回)

近代教育の先駆をなした沼商

明治維新は列強に追いつけ追い越せと富国強兵が叫ばれ、教育勅語を發布して小・中・大の学校が整備された。

母校、沼商も蓮光寺を仮校舎に、町立沼津商業学校として明治三十二（一八九九）年開校した。その後、山神道から大正十（一九二一）年丸子町に移り沼津周辺の発展に尽くしてきた。

沼商は県東部の中心的商業学校として、静岡、浜商と並んで数多くの人材を輩出してきた。

時の日本は戦争に明け暮れ、進学率一〇％という時代だった。若い勤労青少年は教育の機会にも恵まれずにいた。

そうした状況下にあつて、当時沼津市にあつた横山製材所社長横山定は、恵まれた教育環境で育つた勤労青少年は、やがて、日本の底力になるとの強い信念から、多額の私財を投げ出しその重要性を静岡県などに訴え続けた。

さらに千本乗運寺林輝彦住職、弁護士佐藤英一、当時県の実業教育振興会の評議員をつとめた岩

崎亀などの協力を得て、静岡県を粘り強く説得し、ついに昭和十七（一九四二）年四月、県立沼津商業学校に第二商業学校として夜間部併設にこぎつけた。

戦時下の教育に徹した二商

新設された沼津第二商業学校は校区も東は真鶴から西は富士岩淵さらには北駿、伊豆半島と広域で最初の募集人員六〇名に対して倍以上の応募者が殺到する状況であつた。

私は昭和十六（一九四一）年に愛鷹の高等小学校を卒業して、沼津区裁判所検事局へ就職した。しかし、他の職員に比べて高等小学校卒ではいかにも無学歴に等しくひどく落胆したことを覚えている。

そんな折、沼津第二商業学校が新設されることを官報で知り、私にとつてはまさに青天の霹靂で、一気に向学心を駆り立て、沼商へ進む決心をした。

そして憧れのN・C・Sの徽章入り帽子、焼き印の表札と沼商入学の榮譽に胸を踊らせたのである。

当時、名物校長との評判の高かつた小谷大治校長は自ら修身科を担当され、その教育の根底は五訓「温良の美德、堅忍持久の精神、研究的態度、信頼すべき人物、体育の自覚」の教えにのっとりて厳しく教育された。

当時は国を挙げての戦争状態で外国語排斥政策も加わつて、ローマ字の校章「N・C・S」が漢字で縦書きの「沼商」となり、帽子も戦闘

帽になった。

さらに沼商は第二工業学校と改名され、夜間の第二商業も二商と呼ばれるようになった。

また、その頃はよく空襲警報が発令されたが、その度に裸電球に黒布を被せての授業となつた。

さらに、昼間部は学徒動員で工場や農家へ行き学校は夜だけになり、そして多くの学友たちは陸海軍へ続々と出征していった。

その頃、戦時繰上卒業という処置がとられ、私は三年修了で名古屋の連隊へ一八歳で入隊した。

幸か不幸かやがて敗戦を迎え復員でき、毎日に生き延びられたと実感できた。沼商は戦災で校舎も消失していたが復学し、昭和二十一年（一九四六）年三月、沼津第二商業学校一期生として卒業できた。

役割を果たした定時制の閉課

全盛時代の沼商定時制は生徒数が五〇〇人を超え入学難の丸子時代もあった。国道一号線の騒音から徳倉へ移り通学の不便さもあつたが、高度経済成長下高校進学率は九〇％を超えるほどになつていった。

やがて単位制高校の整備も進み、育英制度も充実されるなか、県内高校の統合問題が浮上、平成二十三年三月三十一日には永い伝統に築かれた県立沼津商業高等学校定



時制も大きな足跡を残して閉幕することになった。沼商定時制は未だの沼商の語り草として不滅の光を放つてあろう。

沼商定時制閉課記念碑建立

伝統ある沼商定時制の閉課を迎えるに当たり、全日制・定時制を問わず、多くの同窓生並びに振興会、後援会、学校関係の各位の多大なるご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

我ら沼商定時制に通いし二千有余名は多感なる青春期を仕事と勉学に励み、良き友を作り各々が人生の礎を築くことができました。その万感なる思いを碑に刻み、これを永遠に残すこととしました。



同窓会館東側に建立された定時制閉課記念碑(左端)と友情の広場から移築された友情の像(中央)

◆ 定時制 70 年のあゆみ ◆

年 号	西 暦	出 来 事
昭和16年	1941年	横山定(横山製材社長)、林輝彦(乗運寺住職)、岩崎亀(県実業教育振興会評議員)、佐藤英一(弁護士)など勤労青少年のための学校設立に奔走
昭和17年4月1日	1942年	県立沼津商業学校に第二商業学校(夜間)を併設 県立沼津第二商業学校となる 定員60名に対して120名の応募あり
昭和23年4月1日	1948年	学制改革により県立沼津商業学校は県立沼津商業高等学校となる それにともない第二商業学校は県立沼津商業高等学校定時制となる
昭和27年3月11日	1952年	卒業記念誌「蒼雲」を「学友」と改め第2号を刊行 以後58号まで刊行
昭和27年11月3日	1952年	定時制創立10周年を迎える 「振興会」を設立。会長に横山定就任
昭和28年9月23日	1953年	第4回東部高校定時制体育大会で本校総合優勝
昭和33年11月30日	1958年	県下高校商業実務競技会、定時制の部で本校第1位となる
昭和35年12月26日	1960年	定時制給食室竣工。完全給食となる
昭和37年11月23日	1962年	定時制創立20周年を迎える
昭和42年10月9日	1967年	学校移転が決まりこの年清水町徳倉に全校移転 10月23日より授業が開始される
昭和45年10月1日	1970年	定時制P.T.A、振興会を併合。新たに「定時制振興会」とする
昭和47年11月12日	1972年	定時制創立30周年を迎える
昭和49年4月14日	1974年	同窓会館兼生活研修会館(丸子の杜)竣工
昭和49年11月27日	1974年	運動場に夜間照明設備設置完了
昭和52年5月28日	1977年	全国定通教育30周年記念式典で本校が文部大臣賞を受賞
昭和57年9月26日	1982年	定時制創立40周年を迎える 「友情の像」を設置し、そこを「友情の広場」とした
平成4年9月13日	1992年	定時制創立50周年記念大会を厚生年金センターで盛大に執り行う 記念誌「星空の半世紀」を同時に刊行
平成14年9月27日	2002年	定時制創立60周年を迎え、60周年記念号の新聞発行(9月13日)
平成20年4月1日	2008年	静岡県の県立高等学校第二次長期計画(学校統廃合を含む)により 平成20年度より生徒募集を中止する
平成21年4月1日	2009年	「沼商定時制閉課記念実行委員会」発足
平成23年3月31日	2011年	この日、県立沼津商業高校定時制70年の歴史に幕を下ろす

定時制の思い出

第二商業学校の想い出



開校時
谷口 輔朗
(定高二回)

昭和二十年四月、十四才で第二商業学校という夜間中学校に入學しました。当時は敗戦の色濃い時で米国のB29の来襲が毎日のように続き、空襲警報が鳴ると授業は中断され帰宅させられるという状態で、このまま勉強が続けられるのかと不安になりました。

七月十六日夜、沼津市は大空襲を受け一夜にして焼け野原となり沼商も校舎一棟を残してすべて焼失しました。

焼失した学校はというと旧大岡村高田の戦災を免れた海軍工廠兵舎を改造し、教室にして再開しました。兵舎を利用した間に合わせの教室のため、その真中に四本の柱があり、それが非常に邪魔になったことをよく覚えています。

当時困ったことといえば食糧難と電力難でした。食糧は月毎に配給されますが二十日分しか無く残りは、闇の食糧調達のため懸命でした。停電が多く、四時間の授業中半分以上が停電で授業がほとんど出来ないと言う悲惨な状態が八十才の私たちの青春でした。

ぬくもりの学び舎、丸子の杜



丸子時代
廣瀬 忠男
(定高九回)

「丸子の杜」いい響きですね!! 厳しさの中にも青春の甘美の思い出が沢山詰まったよき時代でした。私も学べる場を与えられた喜びに胸膨らませ丸子の学び舎に通ったのは、昭和二十八年、今から五十八年前の春のことでした。

多感な青春を過ごした定時制四年間の学園生活は何者にも代え難いみずみずしい感動の日々でした。在校生は三百五十人を数え、体育祭を始め諸行事も定時制独自に運営され、また、部活動も体育系、文系併せて十六部があり他校に抜きん出た活動をしてました。

当時は給食もなく夕食抜きからの授業でしたが、三年生の時から廊下の片隅でパンが売られ、そのコッペパンの旨かったこと。飽食の現在では考えられない味でした。

また、その頃は先生の宿直の際天下国家を論じるなど硬軟とりまぜた諸々の話まで宿直室で先生と夜遅くまで議論し合うなど、今では考えにくい大らかな時代でした。そして二回卒の鈴木廣さん作詞の定時制学生歌を、同期同窓が集まるとよく歌ったことも、丸子時代のよい思い出となっています。

私にとっての沼商定時制



徳倉時代
和田 仁
(定高二七回)

昭和四十六年四月、熱海から沼津のはずれの辺鄙な所に通い始め、はじめは友達も無く、四年間通い通す自信はありませんでした。

そんな熱海のぬるま湯育ちの蛙を逞しく強くしてくれたのが沼商定時制だと私は思っています。

一クラス十数人の男女。最大年齢差十数歳。考え方、性格も千差万別な同級生でしたが、気さくに話せる不思議な関係はここにしかないと思っていました。そんな中で私の人生観が形成できたと今も思っています。

入学当時友達一人もいなかった私を「存在感のある人間でいよう」と思わせたのは同級生と定時制という環境でした。それまで人前に出るのには苦手でしたが、選ばれて生徒会長に、「豚も煽りゃ」かも知れません。

四年間、往復二時間。それでも学校に行く価値を感じていました。同級生、先生方、先輩、後輩などみなさんに感謝。人生勉強、特に人間関係を学びました。四年間本当に愉快でした。沼商定時制廃止は卒業以上の寂しさを感じます。

学友との別れと旅立ちへの道



最後の四年生
松本慎太郎
野田祐介
松本仁美
井上智恵
(写真左から)

振り返れば、三年以上も前のこととなります。高校生になるという期待と同じくらい、これからのれない夜間の学校生活を送るという不安をもつての入学でした。

いざ入学してみると、私たちが待っていたのは戸惑いの連続でした。クラスは十六人と非常に少ない人数での出発でした。また、制服の指定もなく私たちは私服で登校しましたが、学校内を私服姿で歩くことにちょっと違和感も感じました。しかし、私たちは紛れもない沼商定時制最後の入学生。

卒業間際になり、いまは多くの学友も去り僅か四人となってしまいました。でも、四人がそれぞれ支え合つての学校生活を送ることができたと思っています。

卒業と同時に沼商定時制がなくなるのは、悲しいことだけど定時制最後の生徒となる私たちはそれを誇りであると強く感じています。校訓の「自主・友情・進取」を忘れずに、卒業まで悔いのないよう過ごし、それぞれが心に決めた目標に沿って頑張つてゆきます。

支部だより

◆富士支部◆

『沼商ふじの会』の一年

大村光孝(高一〇回)

平成二十一年度の『沼商ふじの会』の活動を振り返ると、まず、総会で落語界の重鎮、桂小金治師匠を招いた講演会があげられます。特に総会での講演会は同窓生以外にも認知されてきたようで一般の聴講者が目立ってきました。

文化事業として音楽、落語などを『生』で楽しんでいただくことを目的の一つに掲げ、来館者に感動と喜びそして『ありがとう』という感謝の念をもって心豊かになつてお帰りいただいています。

文化事業として開催した歌手ミネハハのチャリティーコンサートは七〇〇席の会場が一杯になるほどの盛況でした。

こうして得た収益は植樹事業や青少年育成事業など富士地区の文化向上のため活用されています。

また、『義足のランナー』鳥袋勉さんの講演会にも沢山の方々に参加されました。

平成二十一年度の県立富士宮東高等学校、富士宮市立第一中学校の講演会には、およそ九五〇名が参加しました。

鳥袋さんの講演会は富士市を中心に二十五回開かれ、延べ一万三千五〇〇人が聴講しています。

◆裾野支部◆
地域貢献事業など推進

支部長 大庭敏克(高一一回)

裾野支部活動の一環として第七回の支部総会を七月四日開催しました。総会には、大橋裾野市長をはじめ県会議員、学校からは笹原校長、同窓会から小池会長らの来賓をお迎えし、支部会員らとの懇親を深めました。

支部総会では、地域貢献事業の一環として、市内小学生の陸上教室が全国・東海大会に出場することから支援金を贈ることを決め、八月六日に支部長から贈りました。

この教室を指導しているのは支部会員の植松高宏(高一〇回)、志村重利(高一六回)らが中心となり陸上競技の底辺の拡大と地域の社会体育の振興を図るなかで、五年連続全国大会に出場しています。

裾野支部は地域貢献事業の一環として、市内の西中学校野球部県大会出場支援、南小校庭の藤棚設置やサッカー協会へのキッズサッカーボール寄贈などの取り組みを毎年続けています。



支部長より「小学生陸上教室」代表に贈呈目録を手渡す

◆熱海支部◆
支部総会にご参加を！

梅澤恵里(高四九回)

沼商熱海支部の総会が今年三月十六日に行われ、在校生の資格取得状況や簿記の検定、部活動についての報告があり、沢山の活躍を知ることができました。

新聞などで沼商生が活躍する記事を見るとうれしい気持ちになります。総会で直接詳しい話を聞くとその気持ちも倍増します。

私の頭の中にはクラスメイトの顔や教室、廊下、体育館など当時の懐かしい記憶が蘇りました。

いまでは当時の友達と会う機会がほとんどないため、年賀状でお互いの近況報告をすることが恒例となっていましたので、熱海支部総会には私にとって一番身近な沼商との繋がりがだと思っています。

また、この総会では、幅広い年代層が出席するので、丸子町時代の沼商などについての興味深いお話や貴重な思い出話を聞くことができます。

みんなでビンゴ大会や校歌斉唱など、和気藹々と楽しく総会を行っております。初めての方も、久しぶりに出席という方も、ぜひお気軽にご参加下さい。

熱海支部一同、みなさんの参加をお待ちしております。

◆定時制部会◆
有終の美を飾ろう

小林昭太郎(定高一一回)

沼商定時制は平成二十三年三月、七十年の歴史の幕を閉じます。

その間、多くの有能な人材と数々の業績を残してきました。顧みれば、悲喜交々沢山の思い出が刻まれました。その記念事業を行うため昨年より何回かの会合を重ね事業の検討を行ってきました。

そしてこの会報が皆さんの手元に届く頃、新たな記念碑が『丸子の杜』(石碑)東側へ設置されていることと思います。

多くの記念事業も平成二十三年三月十三日(日)の記念同窓会をもって完結いたします。しかし、定時制部会が無くなるわけではありません。立派に幕を閉じたと評価いただけるよう『有終の美を飾ろう』

ではありませんか。皆さんのご協力を切にお願いたします。

来年の三月十三日、皆さんにお会いできることを楽しみにしています。みんなで参加しましょう。



明りの灯る夜の丸子町校舎(右端は体育館)

母校この一年

学校の現状

◆生徒在籍数(五月一日現在)

全日制 六六二名

(内男子二〇一名 女子四六一名)

一年生 二二七名

二年生 二二九名

三年生 一九六名

定時制 四年生 四名

(男女各二名)

◆設置学科

●国際ビジネス科

・会計コース

・経営コース

・コミュニケーションコース

簿記や情報処理及びマーケティングの基礎・基本を身につけ、各コースで商業の各分野をより専門性を深めた学習を進めます。

●情報ビジネス科

・システムコース

・ネットワークコース

・マルチメディアコース

情報処理関係の基礎・基本を身につけ、国家試験合格を目指して学習を進めます。

◆主なコースと資格取得

・会計コース↓日商簿記二級

・システムコース

↓基本情報技術者試験

↓応用情報技術者試験

・ネットワークコース

↓ITパスポート試験

◆資格取得状況(二十一年度卒業生)

●国家試験合格者

基本情報技術者試験 八名

ITパスポート試験 五名

応用情報技術者試験 二名

●商工会議所検定合格者

簿記二級 四二名

●全商関係検定(一級合格者)

六種目合格者 二名

五種目合格者 一四名

四種目合格者 三四名

三種目合格者 三九名

合計

八九名

●英語関係検定合格者

英語検定準二級合格者一五名

◆進路状況(二十一年度卒業生)

●主な進学先

▽国立：福島大・滋賀大・静岡県立大

▽私立：立教大・法政大・専修大

日本大・東京経済大・拓殖大・神奈川大・東海大・文教大・獨協大

関東学院大・東京女子体育大・日本女子体育大・東京工科大・東京福祉大・神奈川工科大・横浜商科大・静岡英和学院大・常葉学園大

富士常葉大・その他

●主な就職先

東京電力沼津支店・沖電気工業・JA三島函南・南駿農協・戸田漁協・沼津信用金庫・三島信用金庫

沼津魚市場・米久・スズケン・東洋印刷・明治ケンコー・足高観光開発・近物レックス・二葉建

進学者 四二名

設・協和医科器械・東海旅行鉄道

伊豆箱根バス・藤森工業・内野商店・木村商事・芹沢薬品・サンライ

イン・ノジマ・山口製作所・レマコム・その他

就職者一三〇名

◆情報処理技術者試験(二十二年

基本情報技術者試験

本校合格者 日下佳祐

(県内高校生合格者一三名)

ITパスポート試験

本校合格者 一二二名

(県内高校生合格者五九名)

応用情報技術者試験

本校合格者 坂田真美

(県内高校生合格者七名)

◆第三十三回 沼商・沼東野球定期戦

新人戦 沼商 6対2 沼東

定期戦 沼商 4対9 沼東

OB戦 沼商 6対15 沼東

◆校内短歌コンクール

明石海人賞(最優秀賞)

海はおし

おしかえされてを

繰り返し

音をつくって

人をはげます

斉藤千佳(三年)

六月十一日、紫旆祭(文化の部)

で開会式に先立ち、優秀賞・佳作

を含め表彰されました。

活躍する

男子バスケットボール部

昭和三年の創部以来、今年で八一年を迎える歴史と伝統ある部です。現在、部員は三年生十七名、二年生五名、一年生七名の計二十九名で活動しています。「文武両道」

「常に全力を尽くす」をスローガンに毎日練習に取り組んでいます。一月の新人戦、五月の高校総体には県大会出場を果たし、部員の志気も大いにあがっています。

学習面では日商簿記検定二級の資格やITパスポート試験などの資格を取得し、進路先も就職も

ちろんのこと、静岡大学への進学者もいて、部活動を通して立派な社会人になれるよう頑張っています。

今後はもっと上位を目指して、練習に励んで行きたいと思いますので、ご声援よろしくお願いたします。



Numasho
http://www.numasho.jp

ホームページに
みんなで
アクセスしよう!

活躍する在校生

◇大会記録◇

(平成二十一年八月～二十二年七月)

運動部

◆県大会出場◆

●陸上競技部

新人戦(9月)

女子一〇〇m

女子二〇〇m

女子三〇〇mw

高校総体(5月)

女子一〇〇m

女子二〇〇m

女子三〇〇mw

女子走高跳

●バレー部

選手権(11月)

選抜大会(1月)

高校総体(6月)

●弓道部

新人戦(11月)

団体出場

個人 和田悠耶・石井千尋

足立三奈・金崎夕姫

高校総体(5月)

団体出場

個人 十名出場 山田理恵 七位

国体予選(7月)

団体出場 優勝

●ソフトテニス部

新人戦 団体出場(10月)

高校総体 団体出場(5月)

国体予選(7月)

個人 杉山エリカ・二瓶めぐみ

内藤 小郁・山田 夏生

●バドミントン部

新人戦(11月) 女子団体出場

●卓球部

新人戦(12月)

男子団体出場

男子個人 星翔太・千須和将貴

女子個人 金子舞

高校総体(5月)

男子個人 星翔太・千須和将貴

女子団体出場

●男子バスケット部

新人戦(1月)

高校総体(5月)

●女子バスケット部

新人戦(1月)

高校総体(5月)

●ホッケー部

スポーツフェスティバル(10月) 優勝

選手権(4月) 優勝

◆東海大会出場◆

●陸上競技部

新人戦(10月)

女子三〇〇mw 千原涼

●ホッケー部

団体(8月)

選手権(9月)

選抜大会(12月)

高校総体(6月)

●バレー部

選抜大会(12月)

高校総体(6月)

文化部

◆県大会出場◆

実務競技会(9月)

●電算機部

情報処理A 団体 準優勝

個人 優勝 佐々木於十

個人 三位 鈴木杏奈

情報処理B 団体 優勝

個人 準優勝 土屋将輝

個人 三位 勝又 将

英文ワープロ 団体 三等三席

電卓 団体 三等二席

ワープロ 佳良賞 上杉愛里沙

●美術部

団体二等

第一部門 三等 渡辺祐紀

第二部門 優勝 及川舞子

瀧本玲奈・稲本祥乃

松本明季乃・遠藤歩惟

第三部門特別賞 相原耶津美

●珠算部

団体 三等一席

個人 三等三席 茶田さわ香

●全国高校情報処理競技大会(6月)

団体の部 二等二席

個人の部 坂田真美 優勝

個人の部 阿井絵梨華 三位

●全国高校珠算競技大会(6月)

電卓部門

団体の部 準優勝

個人の部 大庭諒 六位

●全国高校ワープロ競技大会(6月)

英文ワープロ部門

団体の部 三等二席

●吹奏楽部

吹奏楽コンクール(8月) 金賞

アンサンブルコンテスト(1月) 金賞

金管八重奏Aチーム 金賞

金管八重奏Bチーム 銀賞

クラリネット八重奏 金賞

●簿記部

新人戦(12月)

団体 二年 三等三席

一年 二等二席

個人 二年 六位 茶田さわ香

個人 一年 三位 室伏ゆりの

◆東海大会出場◆

実務競技大会(11月)

●電算機部

情報処理A 団体 三等一席

英文ワープロ 団体

●珠算部 団体

個人 佳良 茶田さわ香

●簿記部 個人 有水遙奈

●吹奏楽部

アンサンブルコンテスト(2月) 金賞

金管八重奏Aチーム 銅賞

◆全国大会◆

●電算機部

全国高校情報処理選手権(8月)

団体の部 優勝

個人の部 五位 佐々木於十

●全国高校情報科学競技大会(3月)

IP部門 団体優勝(四連覇)

個人 青山英里香 三位

大島 奈々 四位

SE部門 団体 六位

●全国高校情報処理競技大会(7月)

個人の部 坂田真美

マイクソフトオフイス

世界学生大会 日本大会(6月) 金賞 坂田真美

●吹奏楽部

日本管楽合奏コンテスト(11月)

全日本吹奏楽大会(11月)

